

楓之典君乳母草子

（日々是猫日） 其ノ式

中條 恵子 陸自85

冬は、つとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず…。

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて…。

いえいえ、暁月夜よりもいと早く、夜半のうちから楓之典君の一日は始まります。

● 猫の一日

猫様は、適応力と習慣性が高く、同居人の生活様式に合わせつつもルーティンの日々を過ごしておいでです。

此度は、猫様の一日について綴ります。

○ 食ふ

一日の始まり…まずは朝食あさげでございます。

ご機嫌麗しく健やかにお過ごしください。ただために、伺候する者共は、猫様の栖を心地よく整えて差し上げなくてはなりません。

中でも食は元氣の源。飯い・菓子あまたあるものの、齡、体調、お好み、

ドライウエット
乾・湿の特性も踏まえて、『総合栄養食』を基といたします。

大人猫様の食餌は日に二度、朝夕と定まりの刻にお出しします。ご気分次第にて召し上がらないこともあります。置行堀は封じ手。よろし

き質量を都度お給仕いたします。器も、深すぎず小さすぎず、陶の物などがあらまほしく、高坏を用いることもよきかな。

お食餌所も大切にございます。人

の出で入りは僅かに、厠は遠く、落ち着く辺りに、お水と離して調

ず。お水場は、二つ三つなど、住処の所々に備えます。

○ 寝る

語源が「寝子」ゆえ、猫様は一日のおよそ8割を寝て過ごしますが、熟睡は4時間程。夢を見たり、時には寝言を言ったりなさいます。ビックリと驚き突然のお目覚めも。

日中ゆると寝られるにも、猫様ならではのこだわりがありまして、お寛ぎ所に高き棚上や狭く暗い箱中を好むは、野性の名残りにござります。

室温・湿度、居心地もお大切。お

気に入りのご寝所は、季節や寒暖、成長段階、其の時のご気分などに応

じて、まさに猫の瞳のようにコロコロと移ろいます。

加えて、御寝姿は猫様からのサイン。安心・緊張・警戒…家人へのご寵愛の程やお志も拝察できますゆえ、猫飼いや下僕達は気を抜けぬのであります。

○ 出す

猫様は綺麗好き。厠周りは常に清潔快適を保ちます。

静かで所狭せきことなく、落ち着いて御用をなされる所こそありがたい…とともに、ご心配を拜して健康状態を確認でき、換気良好ならばいとよろし。

厠の筈は…大きさの目安はご体長の1・5倍以上、浅すぎず深すぎず、たつぷり砂かきがおできになるものを各猫様お一つずつ、更にもう一つ加えて設置いたしましょう。筈に敷くお砂は、鉱物・植物・紙系色々あり、お好みも異なります。香り、粒の大きさ、感触などが猫様の判断基準のようにございます。

まめなお掃除は勿論、量・状態・回数ことばの確認は、猫様の健康管理に必須です。日常の記録は異常の感知を容易にし、通院時の説明にも役立ちます。画像撮影もお勧めいたします。

○ 遊ぶ

お食事・お昼寝・御用足しのほか、毛繕いや爪研ぎで身支度を整えて家内を巡り、お外を眺めかつ監視なさるなど、猫様は日中を自由にまったりとお過ごしになります。

そして、下僕達が一日の勤を終えてお側に待てる夜は、大切な触れ合いタイムにございます。スキンシップやブラッシングをしつつ、玩具でゆるりと遊びましょう。

お遊び不足は真夜中の大運動会の幕開けとなります。故に、猫飼いや衆も下僕共も心してお相手の時を設け、じゃらしなどで猫様の狩獵本能に火を付け、ながながしうゆるゆると遊んで差し上げるのでございます。

● 楓之典君のつぶやき

― 食ふ・寝る・出す・遊ぶは、ぶうのお仕事也 ―

● 食ふ・寝る・出す・遊ぶは、ぶうのお仕事也

● 食ふ・寝る・出す・遊ぶは、ぶうのお仕事也



新春を寿ぎ
蝦夷酒を給る楓之典君